

奈良県近世社寺建築の調査

建築物研究室

滋賀県の調査と相前後して、今年度から2カ年にわたる、奈良県の近世社寺建築調査を開始した。初年度は県南部の吉野郡、宇陀郡、高市郡、北葛城郡の各町村と、大和高田市、橿原市、御所市、五条市、桜井市を対象とした。2次調査総数は163棟、その内神社建築は52棟、寺院建築は111棟である。神社建築の調査数が寺院建築を大きく下回る結果となったのは、まず県南では特に本殿の造替が盛んで近世本殿の遺構が限られること、次に拝殿を伴うものが比較的少なく、あっても付属屋を含めて近世のものはまれであることが大きな理由である。

神社本殿の形式は、予想通り春日造が大半を占め、流造がこれに次ぐ。春日造本殿26棟のうち、隅木入のものが9棟ある。隅木入本殿は宇陀郡に最も多く、吉野郡、高市郡、大和高田市、御所市にも及ぶが、五条市、橿原市には少い。一方流造本殿の古い遺構は一間社に限られ、五条市と大和高田市に集中している。二間社以上の遺構の年代は総じて新しく、吉野町、東吉野村に大規模なものがある。

春日造本殿で注目される遺構としては、まず建立年代が16世紀に遡る可能性を持つものとして、初生寺白山権現社本殿(榛原町自明)が挙げられるが、後補材も多くかなりの修理を受けているとみられる。天満神社本殿(大和高田市根成柿・17世紀前期)は比較的規模の大きい隅木入春日社で、その明快な意匠には格別のものがある。八幡神社本殿(黒滝村粟飯谷・17世紀前期)は摂社と2棟同時期・同規模で板葺、しかも摂社のみ見世棚造とする逸品である。菟田野町には年代の古い小規模な本殿が目立ち、一方五条市には井上内親王を祠る御霊神社が多数(流造を含む)あって装飾的な意匠をもつ一群を形成する。この他に3棟同一の本殿を持つ水分神社本殿(大字陀町平尾・貞享4年)、簡素ながら品格ある春日神社本殿(橿原市戒外・17世紀中期)などが好作品である。また春日大社及び同若宮の古社殿を4棟(御所市東持田・葛木坐御歳神社本殿、同戸毛・春日神社本殿、五条市長曾・龍池神社本殿、榛原町萩原・墨坂神社本殿)確認した。

流造本殿では、御霊神社本殿(五条市岡町・17世紀前期)が年代は最も古いのが改造が大きい。上記天満神社本殿と同敷地に建つ八幡神社本殿(大和高田市根成柿・17世紀前期)は、小規模ながら意匠は重厚である。以上は脇障子が身舎前面に付くのが特徴で、類例は御霊神社本殿(五条市長曾・17世紀後期)にも見られる。五条市では落柿神社本殿(黒駒町・17世紀後期)が彫刻を多用した異色作である。拝殿その他については、先に述べたように近世建築が少なく、現在までに耳成山口神社拝殿(橿原市耳成・寛延元年)、飛鳥坐神社拝殿(明日香村飛鳥・18世紀中期)の2棟を数えるのみである。

寺院建築に眼を転じると、本堂の棟数全42棟の内約半数の22棟が浄土真宗に属し、次いで浄土宗が12棟を数える。この他に真言宗や禅宗系諸宗などが若干ある。真宗寺院では大和五坊と称された称念寺(橿原市今井町)・本善寺(吉野町飯貝)・願行寺(下市町下市)・光照寺(御所市御所)・

専立寺(大和高田市高田)がいずれも大規模な本堂ないし伽藍を有しており、その威勢がしのばれる。本堂では願行寺本堂(17世紀中期)・本善寺本堂(伝寛文年間)の2棟が保存もよく、注目される。平面は当初から後門形式を取り、境内鐘楼も優品を具える。吉野郡山間にはより年代の古い満福寺本堂(大塔村篠原・伝慶長年間)・光遍寺本堂(天川村沢原・伝正保年間)の両遺構がある。前者は小規模な対面所形式の堂であり、後者は後門形式とならない古式の平面を保持している。真宗本堂で中古に後門形式に改造されたもののうち、改造年代を知り得る数例では、その年代は18世紀中期に集中していることも注目されよう。

浄土宗本堂では当麻寺奥院本堂(当麻町当麻・慶長9年)が筆頭であるが、向拝の後補をはじめ軸部にも改造を受けている。これに次ぐ17世紀の遺構には乏しいが、18世紀に入ると特に御所市及び新庄町に集中して6棟の本堂建築が残されており、平面と細部意匠の変遷過程をうかがうことができる。

その他の建築では、まず辻堂風の方三間堂として、寿楽院阿弥陀堂(野迫川村北今西・伝天正年間)が挙げられる。木太い軸部は当初のままと認めてよい。観音堂(西吉野村立川渡)にも一部中世の古材が再用されている。次に真言寺院の方三間堂では、壺坂寺因幡堂(高取町壺坂・伝慶長年間)・転法輪寺本堂(五条市犬飼・寛永17年)・当麻寺大師堂(当麻町当麻・伝正保年間)の3棟が、年代が古く、質も高い。他に当麻寺奥院方丈(当麻町当麻・慶長17年)も古い遺構であり、背面中央間が仏間となる本来の方丈形式に復原し得る。後期の壮大な装飾的作品としては龍蓋寺本堂(明日香村岡・伝寛政年間)・専立寺表門(大和高田市高田・寛政6年)が双璧といえよう。

県下には、上記の当麻寺をはじめ、大規模な社寺も数多い。それらには国指定のものなどの優れた建築を含むのが常であるが、今回、大三輪神社(桜井市)の勅使殿・勤番所が重文拝殿(寛文4年)に近い時期のものと推定され、また長谷寺(桜井市)でも鐘楼及び登廊の一部が重文本堂(慶安3年)と同一時期の建立と判明するなど、群としての優秀さを明らかにし得たのも今年度の成果のひとつであった。

(松本修白)